

# 安全データシート

(表紙)

## 化学品及び会社情報

### 製品名

販売会社名

住所

担当部門

電話番号 / FAX

推奨用途

使用上の制限

### バイザー™水和剤

丸和バイオケミカル株式会社

東京都千代田区神田須田町 2-5-2

開発本部 登録・環境グループ

Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323

除草剤

農薬登録以外の使用は不可

本製品に関するその他の情報については、次ページ以降の安全データシート(SDS)を参照してください。

化学品の名称: バイザー™ 水和剤

発行日: 2020/11/02

印刷日: 2020/11/06

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。このSDSは、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: バイザー™ 水和剤

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 農薬 (除草剤)

会社情報

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

100-6110

東京都千代田区永田町 2-11-1 山王パークタワー

会社電話番号 : 03-3519-3190

電子メールアドレス : SDS@corteva.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先 : 0800-170-5827

緊急連絡電話番号 : 0800-170-5827

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類

発がん性 - 区分 1A

水生環境有害性 短期 (急性) - 区分 1

水生環境有害性 長期 (慢性) - 区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語: 危険!

#### 危険有害性情報

発がんのおそれ。

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

#### 注意書き

##### 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

##### 応急措置

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。  
漏出物を回収すること。

##### 保管

施錠して保管すること。

##### 廃棄

内容物/容器を承認された処理施設に廃棄すること。

#### 他の有害危険性

データなし

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
ジチオピル	97886-45-8			40.0%
カオリン	1332-58-7	適用外	(1)-20	>= 1.4 - <= 37.6 %
二酸化チタン	13463-67-7	(1)-558	(1)-558	1.0%
石英	14808-60-7	(1)-548	(1)-548	0.4%
トルエン	108-88-3	3-2	(3)-2	0.2%

その他の成分 不特定  $\geq 20.8 - \leq 57.0\%$

---

## 4. 応急措置

---

### 必要な応急措置

#### 一般的アドバイス:

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

**吸入:** 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

**皮膚接触:** 汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で15~20分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。作業場内に適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。

**眼に入った場合:** 眼を開いたまま15~20分水でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。作業場内に適切な緊急用洗眼設備を設置すること。

**飲み込んだ場合:** 緊急医療措置は必要ない。

#### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目11の有害性情報に記載されている。

#### 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

**医師に対する特別な注意事項:** 熱傷を負っている場合は、除染ののち、熱による熱傷と同じように治療する。特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

---

## 5. 火災時の措置

---

**適切な消火剤:** 水噴霧または散細水。 粉末消火器。 二酸化炭素消火器。 泡消火剤。

**使ってはならない消火剤:** データなし

**特有の危険有害性**

**有害燃焼副産物:** 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 酸化アルミニウム類。ケイ素酸化物

**異常な火災および爆発の危険:** 熱い液体に直接放水すると、激しい蒸気の発生や噴出が起こることもある。粉塵の蓄積を避ける。空气中に分散した粉塵は爆発の危険性がある。着火源を最小限にする。粉塵層が高温に曝されると自然発火することがある。

#### 消防士へのアドバイス

**消火手順:** 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。環境に対する影響を最小限にするため、制御焼却を検討する。制御できない水が汚染を広げるおそれがあるため、泡消火剤が望ましい。完全に水で濡らして冷却し、再発火を防ぐ。火災場所を局所的にするために周辺を水で冷やす。直接棒状放水しない。火災を広げるかもしれない。小規模の火災には、小型の粉末消火器または二酸化炭素消火器を使用する。人の保護や建物の損害を最小限にするために、燃焼する液体を水で流して移動させることもできる。可能なら消防水の流出を防ぐ。消防水の流出を防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。本 SDS の「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。

**消火を行う者の保護:** 陽圧式自給式呼吸器 (SCBA) および防火服 (防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む) を着用する。消火活動の際、この物質との接触を避ける。接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。もしこれらが無い場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。

---

## 6. 漏出時の措置

---

**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:** 場所を隔離する。不必要な人や保護具を装着していない人の、その場所への立ち入りを禁止する。項目 7 の取扱い注意事項を参照。流出した物質は、滑りやすく危険である。適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

**環境に対する注意事項:** 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目 12 の環境影響情報を参照。自然の水路に漏洩するか放出されると、水生生物を殺す可能性が高い。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材:** 可能なら、漏出物は回収する。少規模の漏洩: 掃き取る。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。大規模の漏洩: 清掃サポートについては、弊社にお問い合わせください。追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

---

**取扱い:** 熱、火花、炎から遠ざける。子供の手の届かないところに置くこと。飲み込まない。眼、皮膚、衣服との接触を避ける。粉じんやミストの吸入を避けること。取り扱った後は十分に洗うこと。使用時には換気を十分に確保する。製品を安全に取り扱うには、整理整頓と粉塵の管理が必要である。項目 8 のばく露防止及び保護措置を参照。

**保管:** 乾燥した場所に保管すること。納品時の容器でのみ保管する。食品、食材、医薬、飲料水の近くに保管しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
ジチオピル	Dow IHG	TWA	0.25 mg/m <sup>3</sup>
カオリン	ACGIH	TWA 呼吸濃度	2 mg/m <sup>3</sup>
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 吸入性粉じん	0.5 mg/m <sup>3</sup>
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 総粉じん	2 mg/m <sup>3</sup>
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-C 吸入性粉じん	0.03 mg/m <sup>3</sup> , シリカ
二酸化チタン	ACGIH	TWA	10 mg/m <sup>3</sup> , 二酸化チタン
	Dow IHG	TWA	2.4 mg/m <sup>3</sup>
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M	0.3 mg/m <sup>3</sup> , チタン
石英	ACGIH	TWA 呼吸濃度	0.025 mg/m <sup>3</sup> , シリカ
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-C 吸入性粉じん	0.03 mg/m <sup>3</sup> , シリカ
トルエン	ACGIH	TWA	20 ppm
	ACGIH	TWA	BEI
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M	SKIN
	安衛法(管理濃度)	ACL	20 ppm
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M	188 mg/m <sup>3</sup> 50 ppm

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

生物学的職業暴露限度

成分	CAS 番号	対象物質	生物学的試料	試料採取時期	許容濃度	出典
トルエン	108-88-3	トルエン	血液	週の後半の作業終了前2時間以内	0.6 mg/l	日本産業衛生学会
		トルエン	尿	週の後半の作業終了前2時間以内	0.06 mg/l	日本産業衛生学会
		トルエン	血液中	労働週の最終シフト前	0.02 mg/l	ACGIH BEI

トルエン	尿	シフト終了時(暴露停止後できるだけ早く)	0.03 mg/l	ACGIH BEI
o-クレゾール	尿	シフト終了時(暴露停止後できるだけ早く)	0.3 mg/g-Cr	ACGIH BEI

**曝露防止**

**工学的制御:** 局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

**保護具**

**呼吸用保護具:** 許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、呼吸器刺激や不快感等がある場合、又はリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。ほとんどの場合、呼吸用保護具は必要ない。ただし、粉塵を含む空気中では、認可された防塵マスクを使用する。

**手の保護具:** この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例: ポリ塩化ビニル (PVC またはビニル)。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム (ニトリルまたは NBR)。注意: 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件 (切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

**眼の保護具:** ケミカルゴーグルを使用する。

**皮膚及び身体の保護具:** この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

**9. 物理的及び化学的性質**

**外観**

物理的状态	粉末
色	類白色
臭い	硫黄臭
臭いの閾値	データなし
pH	6.0 - 7.0
融点/ 範囲	55 °C
凝固点	データなし
沸点 (760 mmHg)	適用なし。
引火点	密閉式引火点試験 適用なし。
蒸発速度 (7 °C, 760 mmHg)	適用なし。
可燃性 (固体、気体)	データなし
爆発範囲の下限	適用なし。

爆発範囲の上限	適用なし。
蒸気圧	適用なし。
相対蒸気密度 (空気=1)	適用なし。
比重・相対密度(水=1)	データなし
水溶性	分散する
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
自然発火温度	適用なし。
分解温度	データなし。
動的粘度	適用なし。
動粘度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
かさ密度	0.25 g/cm <sup>3</sup>
分子量	データなし

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

---

## 10. 安定性及び反応性

---

反応性: 通常の使用条件において既知の危険な反応はない。

化学的安定性: 通常使用温度で熱安定性がある。

危険有害反応可能性: 重合は起こらない。

避けるべき条件: 高温にさらされると製品は分解する。

混触危険物質: 以下との接触は避ける: 強酸類。 強酸化剤類。

危険有害な分解生成物: 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。

---

## 11. 有害性情報

---

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

### 急性毒性

#### 急性毒性 (経口)

誤飲した場合でも、毒性は非常に低い。 少量を誤飲しても有害な影響があるとは予見されない。

製品として。

LD50, ラット, オスおよびメス, > 5,000 mg/kg

#### 急性毒性 (経皮)



長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。

製品として。

LD50, ラット, オスおよびメス, > 5,000 mg/kg

**急性毒性 (吸入)**

粉塵への単回ばく露による有害作用はないと考えられる。入手可能なデータによると、呼吸器への刺激は見られなかった。

製品として。

LC50, ラット, オスおよびメス, 4 h, 粉じん/ミスト, > 5.7 mg/l この濃度では死に至らない。

**皮膚腐食性/刺激性**

短時間接触で、局部発赤を伴う軽い皮膚刺激を起こすことがある。  
長時間接触すると、皮膚刺激や、熱傷すら起こすことがある。

**眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性**

眼を刺激することがある。  
軽度の角膜損傷を起こすことがある。

**感作性**

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性:

関連のあるデータは得られていない。

**特定標的臓器毒性、単回ばく露**

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性 (単回ばく露) を示さない。

**特定標的臓器毒性、反復ばく露**

有効成分について:

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている:

副腎。

腎臓。

肝臓。

胆嚢。

血液。

甲状腺。

少量成分について:

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている:

肺。

粉塵に繰り返し過剰に吸入暴露すると、呼吸器官に影響があることがある。

**発がん性**

有効成分について: 動物試験では発がん性はなかった。

少量成分について: 2件の生涯にわたる吸入試験で、二酸化チタンに暴露させたラットに肺線維症および肺腫瘍が認められた。このような影響は、きわめて厳しい試験条件に起因する、通常の呼吸器浄化機能の過負荷によるものと考えられる。職場で二酸化チタンに暴露した作業者には、慢性呼吸器疾患および肺がんの発生率の異常は認められなかった。実験動物での生涯にわたる混餌投与試験では、二酸化チタンは発がん性を示さなかった。結晶シリカは動物とヒトで発がん性があることを示した。

#### 催奇形性

有効成分について: 母体に毒性影響を起こした摂取量でも、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。少量成分について: 試験動物では、トルエンは母体に毒性を示す用量で胎児に毒性が認められた。経口投与するとマウスに催奇形性が認められたが、吸入では認められなかった。

#### 生殖毒性

有効成分について: 動物試験では、生殖を阻害しなかった。

少量成分について: 動物試験では、生殖を阻害することを示した。

#### 変異原性

有効成分について: In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。少量成分について: In vitro 遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。

#### 吸引性呼吸器有害性

物性上、吸引性呼吸器有害性は低い。

---

## 12. 環境影響情報

---

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

#### 生態毒性

##### ジチオピル

##### 魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対してきわめて高い急性毒性を示す(最も感受性の高い種では LC50/EC50 < 0.1 mg/L)。

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 96 h, 0.5 mg/l

##### 無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48 h, > 1.1 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

##### 藻類/水生植物に対する急性毒性

EC50, *Selenastrum capricornutum* (緑藻), 静的, 5 d, 0.020 mg/l

ErC50, *Lemna gibba* (イボウキクサ), 7 d, 0.014 mg/l

無影響濃度, *Lemna gibba* (イボウキクサ), 7 d, 0.0024 mg/l

##### 地上生物に対する毒性

物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない(LD50 > 2000 mg/kg)。

物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない(LC50 > 5000 ppm)。

経口 LD50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), > 2250mg/kg 体重

食餌 LC50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), > 5620mg/kg 餌

接触 LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), 48 h, > 100µg/ハチ

経口 LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), 48 h, > 119µg/ハチ

#### 土壌生息生物類に対する毒性

LC50, *Eisenia fetida* (ミミズ), > 1,000 mg/kg

### カオリン

#### 魚類に対する急性毒性

水生生物に対する急性毒性はないと考えられる。

### 二酸化チタン

#### 魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

NOEC (無影響濃度) 致死, *Leuciscus idus* (コイの一種), 止水式試験, 48 h, > 1,000 mg/l

#### 無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 止水式試験, 48 h, > 1,000 mg/l

### 石英

#### 魚類に対する急性毒性

類似物質の情報による:

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

類似物質の情報による:

LC50, *Danio rerio* (ゼブラフィッシュ), 96 h, 508 mg/l

#### 無脊椎動物に対する急性毒性

類似物質の情報による:

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48 h, 731 mg/l

### トルエン

#### 魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC50/EC50 1~10 mg/L)。

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 半止水式試験, 96 h, 5.8 mg/l

LC50, 魚類, 流水式試験, 96 h, 5.5 mg/l

#### 無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 止水式試験, 24 h, 7 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

LC50, ミジンコ (*Ceriodaphnia dubia*), 半止水式試験, 48 h, 3.78 mg/l

#### 藻類/水生植物に対する急性毒性

EbC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72 h, バイオマス, 12.5 mg/l, OECD 試験ガイドライン 201

#### 微生物毒性

IC50, バクテリア, 16 h, 29 mg/l

**魚類に対する慢性毒性**

無影響濃度, 魚類, 流水式試験, 40 d, 成長, 1.4 mg/l

**無脊椎動物に対する慢性毒性**

無影響濃度, Ceriodaphnia dubia (ミジンコ), 7 d, 子孫の数, 0.74 mg/l

無影響濃度, Daphnia magna (オオミジンコ), 21 day, 子孫の数, 2 mg/l

**土壌生息生物類に対する毒性**

LC50, Eisenia fetida (ミミズ), 150 - 280 mg/kg

**その他の成分****魚類に対する急性毒性**

関連のあるデータは得られていない。

**残留性・分解性****ジチオピル**

生分解性: 生分解は好氣的条件 (有酸素) で起こるであろう。

**カオリン**

生分解性: 生分解は適用不可。

**二酸化チタン**

生分解性: 生分解は適用不可。

**石英**

生分解性: 生分解は適用不可。

**トルエン**

生分解性: 物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。

10-day Window: 非該当

生分解: 100 %

曝露時間: 14 d

方法: OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 3.13 mg/mg 計算値。

**光分解性**

試験タイプ: 半減期 (間接光分解)

感作性物質: OH ラジカル

大気中半減期: 2 d

方法: 推定値。

**その他の成分**

生分解性: 関連のあるデータは得られていない。

**生体蓄積性**

ジチオピル

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は中程度。(BCF: 100-3000、Log Pow: 3-5)  
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 4.75 測定値

カオリン

生体蓄積性: n-オクタノール・水分配係数は適用不可。

二酸化チタン

生体蓄積性: n-オクタノール・水分配係数は適用不可。

石英

生体蓄積性: n-オクタノール・水分配係数は適用不可。

トルエン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)  
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 2.73 測定値  
生物濃縮因子 (BCF): 13.2 - 90 魚類 測定値

その他の成分

生体蓄積性: 関連のあるデータは得られていない。

## 土壌中の移動性

ジチオピル

土壌中移動性は比較的小さいと考えられる。(Koc > 5000)  
ヘンリー定数が極めて低いので、自然水系や湿った土壌からの蒸発は多くないと考えられる。  
分配係数 (Koc): 20500

カオリン

関連のあるデータは得られていない。

二酸化チタン

データなし。

石英

関連のあるデータは得られていない。

トルエン

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。  
分配係数 (Koc): 37 - 178 推定値。

その他の成分

関連のあるデータは得られていない。

## オゾン層への有害性

ジチオピル

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**カオリン**

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**二酸化チタン**

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**石英**

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**トルエン**

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**その他の成分**

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**他の有害影響****ジチオピル**

当物質は、残留性、生物濃縮性、毒性(PBT)であるとは考えられていない。当物質は、極めて高い残留性および極めて高い生物蓄積性(vPvB)であるとは見なされない。

**カオリン**

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

**二酸化チタン**

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

**石英**

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

**トルエン**

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

**その他の成分**

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

---

**13. 廃棄上の注意**

---

**廃棄方法:** 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。以下の情報は購入時の状態のときのみ適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を定める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

---

**14. 輸送上の注意**

---

**道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID):**

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (Dithiopyr)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III
環境危険有害性	Dithiopyr

**海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG):**

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (Dithiopyr)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III
海洋汚染物質(該当・非該当)	該当
MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC または IGC コードに従い積荷を運搬 する。	Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

**航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO):**

国連輸送名	Environmentally hazardous substance, solid, n. o. s. (Dithiopyr)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III

**詳細情報:**

国連番号 3077 及び 3082 に割り当てられた海洋汚染物質は、液体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味容量が 5L 以下、固体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味質量が 5kg 以下の単一もしくは組合せ容器において、IMDG コードセクション 2.10.2.7、IATA 特別規定 A197 および ADR/RID 特別規定 375 に規定されるように、非危険物として輸送することができる。

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

安衛法 表示対象物質 安衛法 通知対象物質

成分	CASRN
二酸化チタン	13463-67-7
石英	14808-60-7
トルエン	108-88-3

### 農薬取締法

## 16. その他の情報

### 有害危険性評価システム

#### NFPA

健康	可燃性	不安定性
1	0	0

### 改訂

ID 番号: 197877 / 発行日: 2020/11/02 / 版番号: 2.4

DAS コード: XF-00010

最新の改訂事項は、この文書全体にわたって、左側の余白に太字の二重線で強調してある。

### 凡例

ACGIH	米国。 ACGIH 限界閾値 (TLV)
ACGIH BEI	ACGIH - 生物学的暴露指標 ( BEI )
ACL	管理濃度、基準濃度
BEI	生物学的ばく露指標
Dow IHG	ダウ社内ガイドライン
OEL-C	最大許容濃度
OEL-M	許容濃度
SKIN	経皮吸収
TWA	時間加重平均 (TWA) :
安衛法 (管理濃度)	作業環境評価基準、健康障害防止指針
日本産業衛生学会	許容濃度等の勧告 - II. 生物学的許容値
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

### その他の略語の全文

AIGS - オーストラリア化学物質インベントリー; AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性が



あるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - テリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - (定量的)構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社 は、お客様や(M)SDS の受領者の皆様が、この(M)SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の(M)SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDS に関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDS をお持ちの場合や、お手元の(M)SDS が最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP